菅浦地区アワビ幼稚仔保育場調査

竹内四郎・勢村　均

1. **目　　的**：保育場人工礁へのアワビの付着状況を調査する。

2. **調査期日**：昭和57年9月17日

3. 保育場概況

水深2～5 *m*にかけて，灘側にＦＲＰ製蛇カゴ，沖側に三角ブロックが設置されている。場内の海底は灘側はごろ石または岩礁，沖側は砂地である。蛇カゴの数組は内部の詰石が抜け，海岸にうちあげられていた。

4. 調査方法

保育場を四等分するように灘側から沖側にかけて3線を設けた。各々の線に沿って潜水者2名で灘から沖へかけて20分間観察を行ない，発見したアワビはその場で種類，殻長（*cm*単位），付着位置を記録した。なお，観察は人工礁についてのみ行ない天然石は除外した。この方法では場内でのアワビ生息密度は把握できないが，場内での相対的な密度は把握できる。植生観察のための坪刈りは1線につき1カ所，0.5×0.5 *m*の方形枠を用いて行なった。

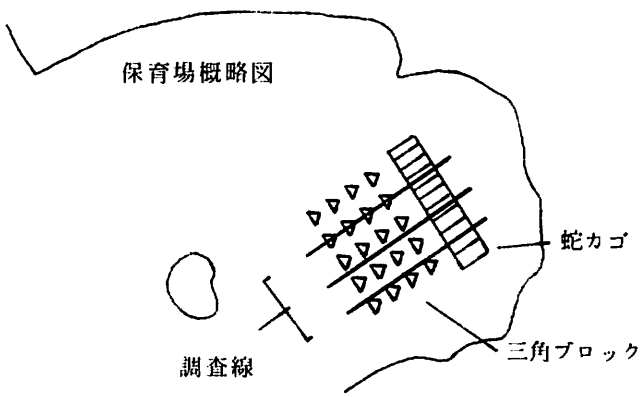

図1　保育場概略図

5. 結　　果

a．アワビ相対密度（表1）

A線8個体，B線1個体，C線2個体発見された。このうちC線の1個体をのぞきすべてクロアワビであった（1個体はメガイ）。

蛇カゴと三角ブロックへの付着個体数は，蛇カゴ5個体，三角ブロック6個体で，ほぼ同様であった。ただし，蛇カゴの方が三角ブロックよりアワビを発見しにくいため，ほぼ同様の値となった

表1　潜水観察結果

定線記号	人工礁種類	水深(m)	アワビ種類	個体数(殻長cm)
A	蛇カゴ 1	2.5	クロ	1 (6)
	2	2.5		
	3	2	クロ	2 (3.12)
	三角ブロック 1	2.5		
	2	2.5		
	3	3		
	4	3.5		
	5	4	クロ	2 (8.14)
	6	3.5	クロ	2 (6.6)
	7	4	クロ	1 (10)
	8	4		
B	蛇カゴ 1	2		
	2	2.5		
	3	2.5		
	三角ブロック 1	3		
	2	3	クロ	1 (12)
	3	3		
	4	4		
	5	4		
	6	4		
	7	4		
C	蛇カゴ 1	4	クロ	1 (12)
	2	4		
	3	4		
	4	4		
	三角ブロック 1	4		
	2	4	メガイ	1 (10)
	3	4		

表2　坪刈り結果（単位：g/m²）

海藻種類	A	B	C
ミル	560	26,000	15,280
トゲモク	280		
ノコギリモク	1,800		
ホンダワラ	80		
合計	2,720	26,000	15,280

可能性がある。よく利用している付着部位は，蛇カゴではカゴ内の石のすきま，三角ブロックでは角の部分であった。

発見されたアワビ（クロアワビ）の殻長は10cm以上が5個体，10cm以下が5個体と同数であった。殻長別にはよく利用する礁に差異はみられなかった。

b．植生（表2）

A線ではノコギリモクが優占し他にミル，トゲモクが多かったが，人工礁表面にはあまり海藻が着生していなかった。B線，C線ではミルが優占し，蛇カゴおよび三角ブロックはほとんどミルでおおわれていた。但し，三角ブロックのミルが着生していない面はコンクリートがむきだしになっていた。